

## 長崎と天草地方の潜伏キリシタンの歴史

1900年 ← 1800年 ← 1700年 ← 1600年

### 禁教期に育まれた潜伏キリシタンの文化的伝統

#### ■主な出来事

#### ■構成資産

| IV<br>宣教師との接触による転機と「潜伏」の終わり                                                                                    | III<br>潜伏キリシタンが共同体を維持するための試み                                                                                      | II<br>潜伏キリシタンが信仰を実践するための試み                                                                 | I<br>宣教師不在とキリシタン「潜伏」のきっかけ                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <p>1873年 明治政府によりキリスト教禁教の高札が撤廃される（解禁）</p> <p>1865年 浦上村の潜伏キリシタンが信仰を告白（信徒発見）</p> <p>カトリックに復帰した各地の集落に教会堂が建設される</p> | <p>18世紀末～ 外海地方の人口増加により、離島などへの開拓移住が始まる</p> <p>外海地方の潜伏キリシタンが自らの信仰を続けるため、移住先の社会や宗教との折り合いのつけ方を考慮しつつ移住先を選んだことを示す集落</p> | <p>1644年 最後の神父が殉教し、国内に神父が不在となる</p> <p>潜伏キリシタンが他の宗教と関わりながら密かに信仰を続ける中で育んだ、さまざまな信仰形態を示す集落</p> | <p>1637年 島原・天草一揆が起こる</p> <p>海禁体制（鎖国）が確立し、宣教師が不在となったことで、固有の信仰形態が生まれる</p> |

- ① 原城跡
- ② 平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳）
- ③ 平戸の聖地と集落（中江ノ島）
- ④ 天草の崎津集落
- ⑤ 外海の出津集落
- ⑥ 外海の大野集落
- ⑦ 黒島の集落
- ⑧ 野崎島の集落跡
- ⑨ 頭ヶ島の集落
- ⑩ 久賀島の集落
- ⑪ 奈留島の江上集落（江上天主堂とその周辺）
- ⑫ 大浦天主堂

### 「潜伏キリシタン関連遺産」のシンボルマーク



典型的な潜伏キリシタンの移住集落の立地環境を表現したシンボルマークで、世界文化遺産への登録を機に、さらに幅広く活用していただけるよう、フルバージョン（右）に加えシンプルバージョン（左）を制作しました。

本遺産の保護活動（保存、活用）にご賛同のうえ、その普及啓発、広報、理解促進にご協力いただける方は、県の許可を得ることでどなたでも使用できます。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたことをたいへん嬉しく思いますとともに、「世界の宝」として認められたことをとても誇らしく思います。

平成19年に世界遺産暫定一覧表に記載されて以来、長年にわたり世界遺産登

録を目指して、県民の皆様と共に歩んでまいりました。これまで多くの方々にご尽力とご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

今後も関係自治体をはじめ地域の皆さんとともに一体となって保存継承と地域活性化に全力で取り組みます。



長崎県知事 中村 法道

## 祝！「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界文化遺産登録決定！

6月24日～7月4日にバーレーンで開催された第42回ユネスコ世界遺産委員会において、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されました。

委員会では各国の委員から、「強く登録を支持する」「国、関係自治体、地域コミュニティの努力を称賛する」「人類史上の重要な事象を伝える遺産である」など称賛の声が相次ぎ、満場一致で登録が決定しました。



登録決定の瞬間、各国からの祝福に応える中村知事（右はユネスコ日本政府代表部・山田大使）

### 登録までの歩み

- H19.1** 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」がユネスコの世界文化遺産暫定一覧表に記載
- H27.1** 「長崎の教会群」の国内推薦が正式に決定し、推薦書をユネスコへ提出
- H27.9** ユネスコの諮問機関イコモスによる現地調査
- H28.1** イコモスからの中間報告において「禁教期に焦点をあてるべき」との意見
- H28.2** 推薦書を取り下げ、イコモスの意見を踏まえ推薦書の内容を見直し
- H28.9** 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」へ名称を変更。内容を見直した推薦書（暫定版）をユネスコへ提出
- H29.1** 「潜伏キリシタン遺産」の国内推薦が正式に決定し、ユネスコへ推薦書を提出
- H29.9** イコモスによる現地調査
- H30.5** イコモスによる登録勧告
- H30.7** 世界文化遺産に登録

世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、キリスト教禁教による宣教師不在の中、神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統の証となる遺産群です。

国内に宣教師が不在となってキリシタンが「潜伏」したきっかけ、信仰の実践と共同体の維持のために密かに行っていたさまざまな試み、そして宣教師との接触により転機を迎え、「潜伏」が終わりを迎えるまでの歴史を物語る12の構成資産があります。

### 二世紀を越えて密かに継承された信仰の証